

## Antiphospholipid Antibodies in Patients with Cutaneous Polyarteritis Nodosa and Livedo Vasculopathy: An Initial Report

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 若林, 奈津子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/30818">http://hdl.handle.net/10470/30818</a>

## 主論文の要約

Antiphospholipid Antibodies in Patients with Cutaneous Polyarteritis Nodosa and Livedo Vasculopathy: An Initial Report

皮膚型結節性多発動脈炎とリベド血管症患者における抗リン脂質抗体(第一報)

東京女子医科大学皮膚科学教室

(主任：川島 眞 教授) 印

若林 奈津子

東京女子医科大学雑誌 第83巻 第2号 86頁～94頁 (平成25年4月25日発行) に掲載

### 【目的】

リベド(網状皮斑)を呈する疾患には、皮膚型結節性多発動脈炎(CPN)、リベド血管症(LV)などがある。両者は臨床像には共通点があるが、病理組織学的にはCPNは小動脈炎、LVが血栓像を呈するという違いがある。近年、CPNにおいて抗リン脂質(aPL)抗体の1つである抗ホスファチジルセリン・プロトロンビン複合体(anti-PS/PT) IgM抗体が高率に検出され、発症への関与が指摘されている。そこで今回、CPNとLVにおいて、anti-PS/PT抗体を含むaPL抗体と血小板・凝固系検査について比較検討し、両者の病態の相違について検討し、さらにはCPNとの異同が議論されている全身型結節性多発動脈炎(PAN)との関係について考察することを目的とした。

### 【対象および方法】

2007年から2012年に当科を受診したCPNとLVの患者を対象とし、aPL抗体(抗カルジオリピン抗体、抗カルジオリピン $\beta$ 2-GP I抗体、ループスアンチコアグラント、anti-PS/PT抗体)と血小板・凝固系( $\beta$ -トロンボグロブリン、血小板第4因子、TAT、D-ダイマー、トロンボモジュリン)を測定し評価した。

### 【結果】

CPN 24例中10例(41.6%)、LV 11例中5例(45.4%)でなんらかのaPL抗

体を検出した。CPN では特に anti-PS/PT IgM 抗体の陽性率 (39.1 %) が高かった。また、anti-PS/PT IgM 抗体の値は、健康対照群 ( $11.28 \pm 6.48$  U/ml) と比較して CPN ( $18.47 \pm 16.01$  U/ml) で高値を示す傾向がみられた ( $p = 0.06$ )。一方、anti-PS/PT IgM 抗体は LV でも 27.2%に陽性であり、1例では高値 (61.1 U/ml) を示した。血小板・凝固系検査では CPN と LV との間で有意差を認める項目はなかった。

### 【考 察】

CPN の発症機転において、aPL 抗体のなかでも特に anti-PS/PT IgM 抗体がなんらかの関与をしている可能性が示唆された。LV の一部の症例では、基盤に CPN と共通の因子の存在が疑われた。CPN において、LV でみられるような血栓形成が先行し、血管内皮障害をきたした結果、最終的に血管炎に発展する可能性を推察した。一方 PAN では、免疫複合体や抗内皮細胞抗体が病因と考えられ、aPL 抗体の直接的な関与は示されていない。今後、症例を追加し検討を継続することで、各疾患の位置づけをさらに明確にできると考える。

### 【結 論】

aPL 抗体の観点から、CPN と LV には共通の病因が働いている可能性が示された。一方で CPN は PAN とは異なる clinical entity であることが推測された。